

## 第145回和光市環境づくり市民会議定例会(全体会議)要旨

日 時 平成30年10月16日(火) 午後3時～午後4時30分  
場 所 603会議室  
出席者 9名  
峯岸正雄、芝勝治、友國洋、渡辺康三、新井昭夫、松田廣行、小林新  
高橋勝緒、高橋絹世  
傍聴者 なし  
事務局 環境課 課長 亀井、課長補佐 工藤、塩野

### 1 開会

峯岸会長

### 2 議題

#### (1) 第2次和光市環境基本計画実行計画改訂版に係る平成29年度実施状況評価について

##### ○ 事務局より平成29年度の重点取組について説明

・望ましい姿1について、厳しい現状があると思うが、もう少し具体的な方針や目標を立てて記載できないか。

→(事務局) なかなか難しいところだが、挙げるとすると、上谷津ふれあいの森の測量を29年度に実施し、今年度、購入手続きを進めていると所管から聞いている。ご意見を踏まえながら随時報告させていただきたい。

→上谷津ふれあいの森が保全されることになるのは大きな一歩だと思うが、29年度は貴重な動植物が生息していた白子湧水地の一つが開発され、カタクリの群生地が無くなってしまったことがそれ以上に残念である。今回は保全できなかったという教訓を生かして、実際に保全できるような形に進められないかと思う。

・緑の基金制度については、以前からずっと検討をするという状態が続いているので、そろそろ次の段階に進めないといけないと思う。

→(事務局) このことについては都市整備課を交えての会議の際にも話が出たが、今後の取組を見守っていただきたい。

・温暖化の問題だが、猛暑や水害などの異常気象への対策を盛り込んでもらい、市が具体的にどう考えているかを知りたい。環境保全と異常気象対策というのは非常に密接に関わっているもので、その辺のことを地域性も踏まえて具体

的に考えてもらえるといいと思う。

→（事務局）地球温暖化対策実行計画を改訂した中で、今までの緩和策に加えて適応策という形で取組を示した。今年度は、来年2月に大学教授を招き、今年の夏の異常気象の分析や気候変動の予測・対策などをテーマに講座の開催を予定している。まずは市民に温暖化の実態を知っていただくなどの啓発活動を中心に取り組みたいと考えている。

・今、太陽光発電の2019年問題という売電価格に関する話が話題だが、今後は自家消費にシフトしてくると思う。和光市はこの問題について何か検討しているのか。

→（事務局）具体的には検討していない。

→どのように検討していくのか、もう少し具体的に分かるといいなと思う。

・トップランナー機器への買い替えが省エネになり、温暖化防止に貢献するという話があるが、そうやって物を交換すると、捨てるのにも新しく作るのにもエネルギーがかかるので、その考え方は環境的に受容していいものなのか疑問だ。環境課には、市民がどう解釈したらいいのかきちんと説明してほしいと思う。

・街灯のLED化については、影響力の大きな取組だったと思うので、施策の実施状況調査票に盛り込んでほしかった。

→（事務局）LEDに関連して前回の会議で質問のあった2点について回答する。LEDの設置によってどのくらい電気代が下がったかという質問だが、29年度は約2600万円、30年度は推定値で約1千万円と所管課から回答があった。これはあくまで参考値として認識していただければと思う。また、ホームページの閲覧者数については、環境と緑化推進という二つのカテゴリーの中で、昨年度の1年間で約9,000人が閲覧している。

→LED照明に変えたことにより大きな経費削減の効果があったのだから、望ましい姿2のところ、街灯を何本LEDに替え、その結果年間で何千万円の経費削減効果があったと記載すれば推進の結果としてインパクトがあると思う。まだ削減効果が分からないから記載しないのではなく、29年度に実施した施策で、今後も継続し、効果の大きいことはアピールした方がいい。上谷津ふれあいの森についても、次年度の土地取得に備えて測量したのだから、30年度はこう変わるんだという前向きなことを書いてもいいと思う。

→平成29年度の実施状況ということで、年度がまたがるものをどうまとめて表現するのかというのは難しいと思うが、ちゃんと実施しているものは出来るだけ積極的にアピールした方がいい。

- （事務局）所管課に確認し調整する。
- ・29年度の重点取組については公表されるのか。
- （事務局）ホームページに実施状況調査票と合わせて掲載する。
- 取組として進んでいることをもってはっきり記載し、これからどう活かしていくのかを記載してほしい。

○ 平成29年度実施状況についての追加意見

- ・施策3は貴重な動植物の調査・保全とその結果の公表と啓発だが、確かに環境マップは貴重な動植物の市民への公表ということでは役立っていると思うが、調査・保全の面では、昨年度カタクリの自生する貴重な緑地が失われ、私たちがカタクリを掘り出して移植をしなければいけなかったことを思うと、よく取り組めたとは言えない。ものすごい量だし急なことだったので、環境のことも考えられずとにかく移植しようと、新倉や大坂ふれあいの森に移植することになってしまった。他にもどんどん緑地が失われて市有のわんぱく広場の樹木も伐採されている。緑地・湧水地が危機的状況であったことを入れてほしい。
- （事務局）わんぱく広場の樹木の伐採については所管課に確認をした。マンション開発のための山留工事の際にわんぱく広場の樹木の枝が重機の障害となるため剪定して欲しいと開発業者から依頼があった。従来は下が斜面林だったため特段剪定管理はしていなかったが、今後マンションが建つことで定期的に剪定が必要になるし、マンションが建ったら剪定のための重機が入れなくなるため管理に多額の費用を要することから、わんぱく広場の樹木をやむなく伐採するに至ったと回答があった。
- 環境を大事にするという考え方が定着しないと、邪魔になるからお金がかかるからと言って切っていたら、まちから木がどんどん無くなってしまう。
- 上谷津では住民が木を残すよう訴えたから残せた。あれだけ立派な木を手入れの問題で切ってしまうというのが市の方針だとしたら大問題だと思う。木を守るには騒がないとだめなのか。開発に対してそういうことをやりたくはないのだが。現地も見してほしい。
- （事務局）現状を確認し、所管課に意見があったことを伝える。
- 一般的にもひとつひとつの木を見て管理するのは非常にコストがかかるらしいので、行政の動きとしてはどうしてもぼっさりやりたくなるらしいと聞いた。
- 経済効率としてはその方がいいのかもしれないが、一度失ったら元に戻せな

いという自然環境上の問題とどう向き合うかを積極的に勉強して欲しい。  
→市が管理しているから市の判断で伐採するのではなくて、行政と市民が意見交換する場があればお互い通じるようになるのではと思う。

## (2) その他

- ・今までにいただいた評価や意見を踏まえて会長の方で評価のたたき台を作成し、次回提示する。
- ・次回の会議は、11月20日（火）午後3時から603会議室で開催する。